

1 目的と位置付け

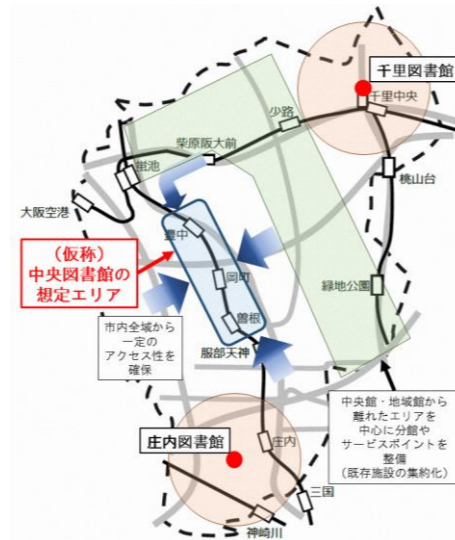
豊中市は、豊中市立図書館の今後の方向性を定めた「豊中市（仮称）中央図書館基本構想（令和3年（2021年）2月）」を策定し、将来ニーズを見据えた新たなサービスの提供と、（仮称）中央図書館を中心とした新たな図書館ネットワークの構築を示しました。豊中市立図書館みらいプランは、基本構想の豊中市立図書館の基本方針等の関連内容を具現化し、新たな図書館サービス網を示すものです。

基本構想の概要

[基本コンセプト] つながる。わたしの図書館で。

[施設配置方針]

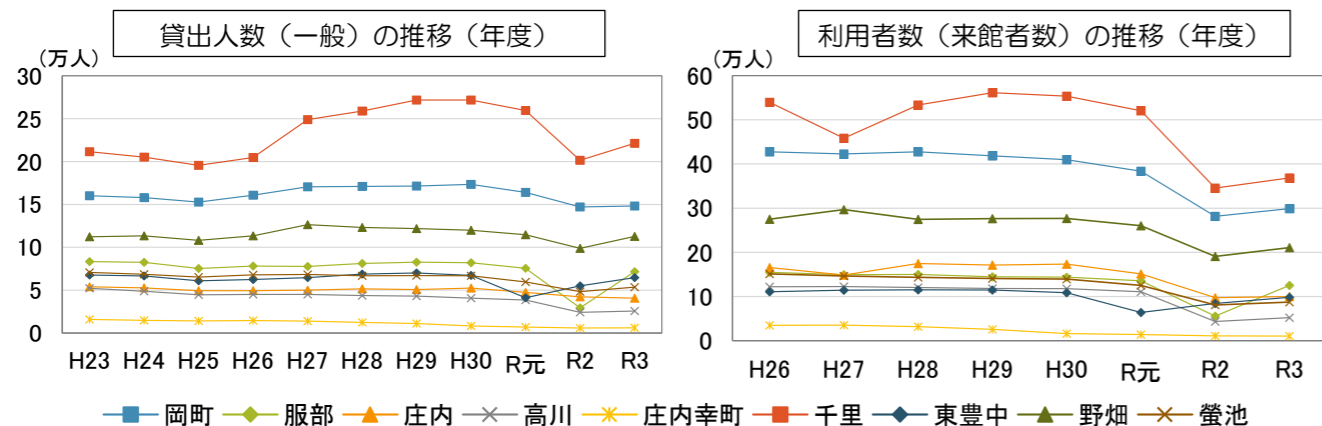
位置付け (施設階層)	施設数・配置	想定規模
中央館	1施設を阪急宝塚線 豊中駅・岡町駅・曽根駅周辺に整備	5,000㎡程度
地域館	2施設（庄内・千里）	庄内 1,000㎡程度 (専有部のみ) 千里 2,379㎡ (共用部含む)
分館	中央館・地域館を補完 (数施設に集約)	各500㎡程度
サービスポイント	①鉄道駅等利便性の高い場所 ②他の図書館から離れた場所	各50㎡程度



【図】（仮称）中央図書館の想定エリアと施設配置のイメージ

2 現状分析

項目	内容
1.各館利用状況	<ul style="list-style-type: none"> 個人登録者数は市全体で減少中、千里図書館のみ全ての年代が増加。多くの館で若者が減少 貸出人数や冊数は全ての分館で減少。貸出者の年齢は若者が少ない。庄内図書館は高齢者、東豊中図書館、野畑図書館、服部図書館は子どもの割合が高い 利用者数（来館者数）は、すべての図書館で減少 レファレンスサービスは地域館を中心に増加 集会室利用は市全体で減少。野畑図書館は利用が多い コロナ禍で非接触、非来館型サービスが充実。予約件数は令和3年度（2021年度）増加
2.各館施設状況	<ul style="list-style-type: none"> 岡町図書館や野畑図書館など施設が老朽化。複合施設内に図書館が多く設置
3.各館の立地	<ul style="list-style-type: none"> いずれの図書館も鉄道駅又はバス停から徒歩圏内
4.図書館運営経費	<ul style="list-style-type: none"> 年間図書館費は約9.9億円（令和3年度） 市民一人あたり年間図書館費は微減



3 課題

① 図書館各館の機能・配置見直し

- 子どもや若年層の利用、レファレンスサービスを推進する配置。蔵書の充実による貸出利用の促進
- 利用が減少している状況から各館の役割や機能を見直し、市民ニーズに合わせた配置や運用への転換
- 利用していない人や利用する時間がない人へのアプローチ。行きたくなる図書館づくりに向けた地域館や分館での滞在しやすい環境整備
- 交通利便性の高い場所への施設配置に努める。電子書籍やアウトリーチサービスなどによる貸出利用の促進

② 中央館機能の設置

- 滞在しやすい空間づくりや様々な体験ができるしかけづくり、課題解決ができる場づくりなど「行きたくなる図書館づくり」の実施
- 変化する市民ニーズに対する長期的視点での人材育成。中央館が地域館や分館を支援する体制や仕組みの整備

③ 効率的な図書館運営

- 市の公共施設マネジメントの推進と将来の財政状況を考慮し、図書館施設の老朽化対策と費用負担の軽減への取り組み
- （仮称）中央図書館を核とした新たな図書館サービス網の構築にあたり、運営の効率化と市民ニーズにあった図書館サービスの充実
- 昨今の著しい社会変化や市の施策を考慮し、今後の図書館事業のあり方を見直し

4 図書館サービス網の構築

（1）図書館の位置付け（施設階層）ごとの役割

位置付け	役割	役割の説明
中央館	あらゆる図書館サービスの中心	<ul style="list-style-type: none"> 課題解決に役立つ専門書など充実した蔵書 選書の実施 レファレンスなど専門性の高いサービスの中核 地域館、分館、サービスポイント、学校図書館への支援拠点 市民交流や情報発信の中心 多様な目的に応じた快適な閲覧環境 多目的なオープンスペース
地域館	庄内・千里地域における中央館機能の補完	<ul style="list-style-type: none"> 汎用性の高い蔵書と地域課題に沿った専門書 地域特性に沿った資料の提供 中央館と連携したレファレンスの実施 地域ニーズに対応した多機能連携によるサービス提供 多様な目的に応じた快適な閲覧環境
分館	中央館・地域館より身近な本と親しめる空間	<ul style="list-style-type: none"> 汎用性の高い蔵書 中央館と連携したレファレンスの実施 地域ニーズに応じた多機能連携によるサービス提供 身近な閲覧環境
サービスポイント	予約資料の受取・返却に特化	<ul style="list-style-type: none"> 交通結節点など利便性の高い場所や他の図書館から離れた場所での予約資料の受取、返却 多機能連携によるサービス提供

（2）施設配置の考え方

- 中央館は、市内全域から比較的アクセスがしやすく庄内や千里の両地域館との配置バランスを考慮し、市の中心部に近い阪急電鉄宝塚線の豊中駅・岡町駅・曾根駅の周辺エリアに位置づけ（基本構想）
- 各施設に共通する予約資料の受取や返却機能が今後さらに充実するよう施設配置を検討
- 分館、サービスポイントは、既存施設を優先して活用。サービスポイントは、市全体で予約資料の受取や返却機能が充足するよう新たな施設配置も検討
- 今後の施設配置において、交通利便性の高い場所への配置を中心に、動く図書館のステーションも合わせて、図書館サービスの充実に努める

（3）中央館の候補地及び施設配置検討

中央館の候補地及び地域館・分館・サービスポイントは、次の検討手順に沿って配置を検討します。

1 中央館

- 立地（想定エリア）
区域：立地適正化計画の都市機能誘導区域内で、市の中心部である豊中駅・岡町駅・曾根駅の周辺
用地：市有地及び民有地（調査への応募用地）
- 候補地の選定評価条件（令和4年度）
〔市有地〕必要面積の確保、転用の可否、建物構造、スケジュール
〔民有地〕必要面積の確保、事業成立性、複合機能、スケジュール
- 候補地の選定（複数・令和4年度）
- 計画地の選定評価条件（令和5年度）
アクセス性、利便性、周辺、立地環境、財政負担、中心性（人口重心）など
- 計画地の選定（令和5年度）

2 分館・サービスポイント

- 対象の設定
- 既存各館の評価
〔分館〕利用状況、圏域人口、他図書館との距離、縮減効果
〔サービスポイント〕他図書館やサービスポイントの距離
- 分館、サービスポイント（既存活用型）の選定

3 新たなサービスポイントの設置

- 設置方針（交通結節点や他の図書館から離れた場所への設置）
- 評価による対象の抽出
- 新たなサービスポイントの選定

4 中央館を核とした新たな図書館サービス網の構築

（4）候補地ごとの新たな施設配置

中央館（案①）	中央館（案②）	中央館（案③）
豊島公園	民有地 A（岡町駅周辺）	民有地 B（曾根駅周辺）
地域館	地域館	地域館
庄内、千里	庄内、千里	庄内、千里
分館	分館	分館
野畑、東豊中	野畑、東豊中	野畑、東豊中
サービスポイント	サービスポイント	サービスポイント
【既設館の活用】 螢池、高川、いぶき 【新設】 豊中駅周辺エリア 緑地公園駅周辺エリア	【既設館の活用】 螢池、高川、いぶき、服部 【新設】 豊中駅周辺エリア 緑地公園駅周辺エリア	【既設館の活用】 螢池、高川、いぶき 【新設】 豊中駅周辺エリア 緑地公園駅周辺エリア

※利倉西センター図書室は、現サービスを継続します。

（5）新たなサービス展開

「知の拠点」として人と情報、人と人をつなげることを基本に、貸出利用の促進や行きたくなる図書館づくりに取り組み、新たなサービス網を構築します。

- 電子書籍を拡充し、誰もが本を借りやすい環境整備と読書バリアフリーの充実
- 蔵書（電子書籍含む）を充実し、貸出利用を促進
- 図書館利用が困難な市民へのアウトリーチサービスの充実
- 新たな施設配置での利用状況を検証し、市内のどの地域でも利用しやすいように、動く図書館のステーション配置の見直し
- 中央館、地域館、分館における役割に応じた滞在しやすい環境整備
- 図書館で様々な体験や課題解決が可能となる取組みの推進
- 図書館サービスのデジタル化（電子書籍、新規登録、サービスポイントの無人化など）の実施

5 スケジュール（予定）

	令和5年度 (2023年度)	令和6年度 (2024年度)	～	令和10～11年度 (2028～2029年度)	令和11年度～ (2029年度～)
（仮称）中央図書館	候補地選定	設計・工事等		設置（目安）	→
岡町図書館	→			廃止	
野畑図書館（分館）	自学自習室拡充	→			分館 →
東豊中図書館（分館）	複合施設の状況や地域性を考慮し調整				
豊中サービスポイント	開設	→			
螢池サービスポイント	上半期閉館 下半期工事等	開設	→		
高川サービスポイント	上半期閉館 下半期工事等	開設	→		
緑地公園駅周辺エリアのサービスポイント化	検討・調整				
服部図書館	→			サービスポイント又は廃止	